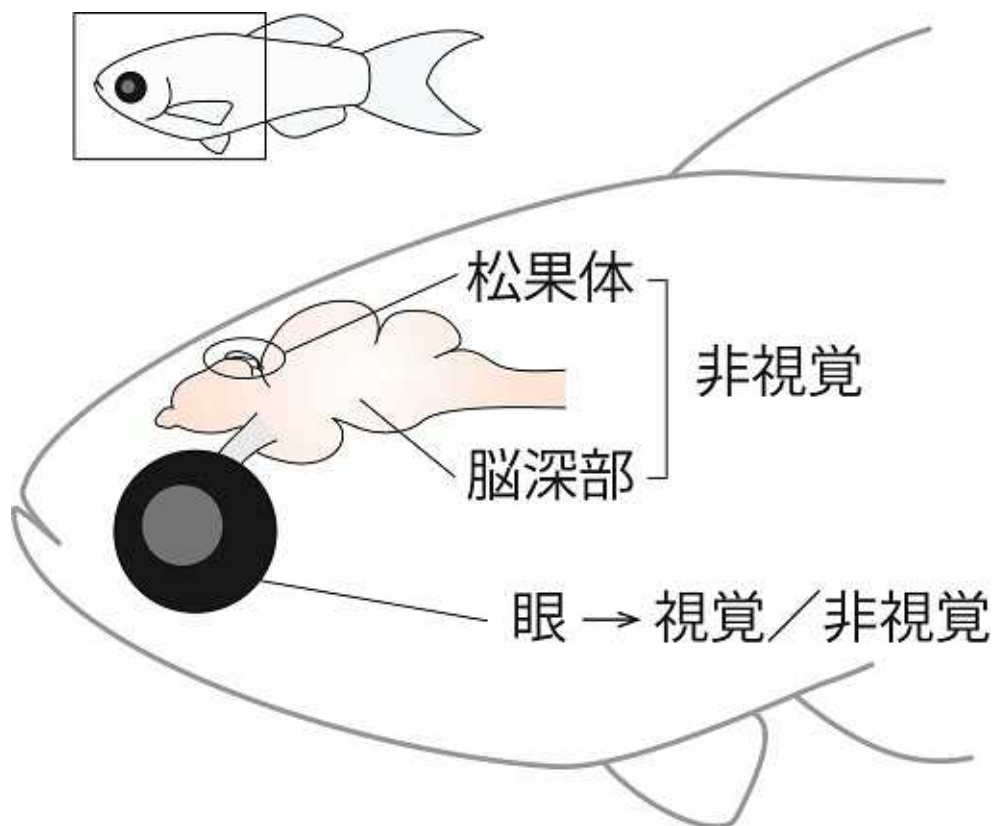


下等脊椎動物における非視覚系の光受容メカニズムに関する 生理学的研究

生物科学コース 川野 絵美



下等脊椎動物における眼外の光受容器官

【眼以外での光感覚に関する研究】

動物は光を様々な場面で利用しています。最も代表的な光の利用法として、眼でものの色や形を見る「視覚」があります。動物は、視覚以外にも、環境の光情報をもとに、時刻や季節などを知ることができます。このような、視覚以外の目的で光を受容することを、「非視覚」の光受容と呼びます。非視覚の光受容のために、哺乳類を除く多くの脊椎動物は、眼以外にも、松果体や脳深部などに光を受容する器官（細胞）を持っています。私たちは、非視覚の光受容、特に、眼以外での光感覚に着目し、その光受容メカニズムやそれらが制御する生理機能について調べることで、動物がどのように光と関わっているのか、その生物学的意義を明らかにしたいと考えています。

キーワード：光受容、ロドプシン、松果体、非視覚、脳深部光受容器官